



Clinical investigation of coagulation markers for early detection of sepsis-induced disseminated intravascular coagulation: a single-center, prospective observational study

著者名	増田 崇光
発行年	2018-06-15
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032137

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2999 号	氏 名	増田 崇光
審 査 委 員 会	主 査 教 授	矢口 有乃	
<p>論文審査の要旨 (400 字以内)</p> <p>本論文は、敗血症性播種性血管内凝固症候群 (DIC) の症例に対し、DIC の早期診断と早期治療介入に、止血系分子マーカー (SF、D-dimer、1、PAI-1) の測定が有用であるかを検討したものである。入院時に急性期 DIC 診断基準では DIC と診断されない症例において入院経過中に DIC を発症した症例では、上記 3 つの分子マーカーは入院時に有意に上昇していたことより、DIC の早期診断に有用であることを示した。さらに ROC 解析から急性期 DIC 診断基準による DIC 診断のために、各分子マーカーの基準値を SF : 31μg/ml、D-dimer : 13.9μg/ml、PAI-1:49ng/ml と求めている。SF<31μg/ml の症例では、いずれも DIC を発症しなかった。以上より。各分子マーカーは、従来の診断基準より早期に DIC 診断に役立ち、特に SF は DIC の除外診断にも有用であることが示唆された。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学会雑誌に公表)【学校教育法学位規則第 8 条】</p>			